

初の革新市長誕生

杉本恒星氏が当選

三千票余りの差で

革新系無所属で新人の杉本恒星氏(五三)と保守系無所属で現職の金堂久喜氏(六三)の間で争われた市長選挙は、十二月二日投票、翌三日開票され、新人の杉本恒星氏が現職の金堂氏に三千票余りの差をつけて当選しました。革新市長の誕生は、市が発足して初めて、県下では高知市、中村市などについて六人目となりました。投票率の最高は九三・九一、市の平均七八・七〇と市民の関心の高さを表わした選挙でした。



十一月三十一日で任期が満了する市長選挙は、十一月二十二日告示、同二十三日立候補が締め切られ、子想通り新人の革新系無所属、杉本恒星氏(五三)と現職の保守系無所属、金堂久喜氏(六三)と廿枝の二人が立候補。市が発足して初めての保守と革新の一騎打ちとなりました。

このため、市民の盛り上がりも高く、一晩に三カ所から四カ所で開催された個人演説会にも三、四十人から百人を集めました。

十日間の舌戦のあと、投票は十二月二日午前七時から市内四十五の投票所で一斉に行なわれ、市平均で七八・七〇、前回の五五・八九を大幅に上廻る投票率となりました。

最高は第二十五投票所(野中一区(四区))で九三・九一、最低は第三投票所(物部)の六九・一八、とくに物部・宇田・東崎など学生や通勤サラリーマンの多い地区で関心の低さを表わした反面無効投票が百四十七票と前回八百五十九票を大幅に下廻り、市民の選挙に対する意識の高さを表わしているようです。

開票は翌三日午前九時から市役所大会議室で行なわれ、杉本恒星氏が三千六十二票の差をつけて当選を決めました。

最終得票

杉本恒星 一三、六四四票
金堂久喜 一〇、五八二票

(選挙終了午前11時15分)
当日有権者数三万九百六十八人
投票者数二万四千三百七十三人
投票率七八・七〇

後免西町の電車通りに陣取った杉本恒星事務所は支持者らで二つたがえすなか、報道陣にかまれた杉本恒星市長は「あえて勝因はいわれないが、前進する歴史の流れとでもいえるようか。歴史の流れに一歩踏みだしたので、市民のより一層のご協力をお願いしたい」と当選の第一声。

開票日の朝の気持ちをつたつた「気がつけば落葉ばかりや木を仰ぐ」を披露。「名も求めず、地位や報酬を求めることのない多くの人たちが私を当選させてくれた。こうした多くの人たちが民主市政をつくることに大きな意義がある。市民との対話ではなく、市民参加でみんなと一諸に腕をくんで市政をすすめたい。私自身も市民の一人なので、みんなのまとめ役をしたい」として「議会は与党議員が少ないなどといわれるが、保守、革新を問わず家庭の台所のこと、おとしりや恵まれない人々など、市民のためになる行政を進めていくことに反対するものはないはずだ。」「市民が主人公になれる市政を、明るい希望にみちた市政のため、全力投球することを約束しました。」

激しい選挙戦であっただけに今後の市政を心配する市民も多く「保守、革新はともかく、南国市政はこれからも続いていくものなので選挙のシコリを残さないで、市勢発展のため、みんなが力を合わせてほしいものだ。」というのが一般の声のようです。

写真 杉本恒星選挙事務所、十二月三日午前十一時写す。



八年とい
う長い年月
をかけて、
金堂市長が
市政の基礎
づくりをして
くれた。

古い歴史と文化を大切に

新市長 杉本恒星

新しい御苦労だつたことと思つた。私は心から、この御努力にたいして深い敬意を申し上げます。

そして、これから私が、金堂市政の耕してくれた南国市に、主的な苗を植えることになったが、何れともあれ、私は、第一

全市民の御協力を御願する次第である。

……杉本新市長は宮崎高等農林(現宮崎大農学部)卒業後、農林省に勤め、終戦後高校教員、この間、県教育委員、執行委員として活躍、四十一年、沖繩復帰運動のため沖繩に渡り、翌四十二年友好運動と農業視察のため中国へ。帰国後は県中友の会会長となる。

本名は恒雄。恒星は雅号で俳句歴が長い。

句集「巖の径」檜庵文化賞、政治評論集「下駄ばきでどうぞ」などがある。

現在、俳人芸誌「壺」主宰。家族は長男は独立、高校教員の緑夫人(心)と二人暮らし。現住所は岡豊町八幡三七七にある。



市民の皆様
さん、あけ
ましておめ
でとごぞ
います。

名実とも県下第二の都市に

議長 土居惣治

輝かしい新春を迎えるにあたり皆さまの御多幸と御繁栄を心からお祈り申し上げます。

私は、昨年十一月市議会において議員諸君の御推挙により議長に就任いたしました。その後、議会の円満な運営と市政の伸展を第一義に誠心誠意努力してまいり、おかげさまで大過なく越年すること

ができました。これは、ひとえに皆さまの御支援と御協力のたまものと心から感謝申し上げます。

かえりみるに、わが南国市も市発足以来十六年目を迎えるに至りました。この間、市議会といたしましては、市執行部と一体となり市政伸展と市民福祉の向上に努力してまいりました。しかし、まだまだ行政需要を満たすまでに至っておりませんし、今後推進しなければならぬ事業、解決を図るべき諸問題が山積しております。

これらを逐次解決し、皆さまの負担にこたえ、名実ともに高知県第二の都市として発展を期するため、最善の努力を尽くす所存であります。

どうか市民の皆さまには市政に御理解を賜わりまして、旧に倣す御指導と御支援をいただき、すようお祈り申し上げます。

昭和四十九年が皆さまにとりまして最良の年でありませう。お祈りいたしまして、年頭のあいさつといたします。



わたしたちの市の市長さんとして活躍された金堂久喜市長が、二期目の任期を終えて、十一月三十一日に市長のイ

二期八年

ごくろうさま

喜市長(五三)が二期目の任期を終えて、十一月三十一日に市長のイから離れました。

金堂前市長は、東京高等蚕糸学校を卒業。田長岡村長、後免町長、元長岡村、後免町、南国市の各農

議長土居惣治氏

副議長浜田健夫氏

市議会は、十一月五日臨時議を開き、正副議長を決めました。

普通、正副議長の任期は四年ですが、議会の申し合わせによる二年の任期が切れたため行なわれたものです。

選挙の結果、議長は土居惣治氏十九票、猪野茂行氏六票、井口清氏四票で土居氏、副議長は浜田健夫氏十九票、竹田実氏六票、小沢正澄氏四票で浜田氏をそれぞれ



島高知農業学校卒。元輪合同運入県油脂工業協同組合理事長。前市監査委員。市開発公社監事。市議三期目。農林業。五十八才。

選びました。

【土居議長の略歴】十市、小牟十市、香長岡村議を経て市議四期目。県園芸連理、十市土地改良区理事長、農業。六十八才

【浜田副議長の略歴】岡豊町中業協同組合理事長。前市監査委員。市開発公社監事。市議三期目。農林業。五十八才。